

此新地誌とクラブ内外に於て亦調査を共にする事と對し
て如何なる意見を持つか。

(3) 全国労働組合同盟方針書(三三頁)。戦線統一
に關する方針と多岐に亘る事と依る戦線
統一とは主旨を異にし、強合主義を主張するものは
ないか。

(4) 本邦は、日本労働強さ部 結成を以て、戦線統一の過
程なりと云ふも、其の構成するもの、指導方針よりするも
之は必要ならざるに在り、其の主義とある。従つて全国労働
の方針書に於ける戦線統一とは相反するものでは
ないか。

(5) 全国労働方針書(二六頁、八行目)。此迄と、クラブ
に於ける事は協つて、従来の左派団体との提携は至る

遊離せしめらるゝと結果になつてはならないか。

(6) 全国労働方針書(四五頁、六行目)と、クラブの謂ふた
の戦線統一とを對比し、見ると、クラブは單に現実の問題上
就て上を論ずるに過ぎず、根本的問題には觸れてゐないか
ないか。

(7) 全国労働方針書(四六頁、二行目)に於て、此と對し
政治は全一に於てはならないか。

(8) 本邦のクラブに當する事項には、クラブの左派員偏向を
部から抗爭するに非ず、この部への内面から抗爭すると
云ふが、後回書や、海軍組合の解群は是れとは異なる
が、プロレタリア時代(六九九月号)の米谷隆氏及
音津達一氏の論を熟讀して見れば、全国労働の解
群と全然相違なきが看取せらるる。